

ほっこりつうしん VOL.01

平成30年9月発行

「子どもを共に育む『親支援』プログラム ほっこり子育てひろば」 京都市



～発刊に当たって～

支援者・補助者の皆様、いつも「ほっこり子育てひろば」のプログラム進行にご尽力頂き、ありがとうございます。京都はぐくみ憲章
プログラム終了後に支援者・補助者の皆様からご提出いただきました実施報告書を基に、「ほっこりつうしん」を作成させていただきました。記念すべき第1号を発行できましたことに感謝申し上げます。

～支援者の皆様から頂いたご意見～

OH30.2 テーマ:「歩む」

○対象:来年度新1年生の保護者

○支援者Aさんの声

今年はたくさんの方が参加してくださり、顔見知りを作るにはとても良かったように思います。はじめは固かった表情もプログラムを進めて行くうちにほぐれて、和やかに話をすることができたように思います。

保護者同士の思いを共有し、親交を深めることが出来ました。また、親子で入学を楽しみにする気持ちを持つことの大切さを感じることができました。

支援者からの言葉掛けもよく聞いてくださり、スムーズにプログラムを進めていくことが出来ました。小学校入学に向けての関心も高く、子どものことを思い、入学を楽しみにしていこうとする前向きな姿勢が見受けられました。

プログラム自体も初めて受けられる方ばかりで、大変楽しみながら参加してくださったように思います。支援者としても参加者の話を聞きながら楽しんで進行することができました。



OH30.5 テーマ:「身につける」

○対象:1年生保護者(小学校)

○支援者Bさんの声

90分プログラムを80分で実施しました。最初に自分の気持ちに向きあってもらう自己紹介をアイスブレイクにしたので、皆さん落ち着かれたと感じます。このワークは続けていきたいです。「困りごとに対する工夫」については意見が少なかったのですが、これは1

年生保護者に参加者を限定したからと考えられます。他学年が混ざるグループ構成の場合、この「工夫を出す」ワークはもっと生かされると思うので、今回はこれで良しとします。

答えや工夫を導き出すには、「ほっこり」を越えたワークが必要だと思います。(話合いからより進んだやり方もありますが、それは「ほっこり」ではできないですね。)



OH30.6 テーマ:「いつくしむ」

○対象:小学生保護者(+地域)

○支援者Cさんの声

参加者同士のコミュニケーションは、よく取れました。

顔見知りが多かったためか、少し話が脱線するグループが見受けられましたが、最後にはテーマに沿った話となり、子どもをいつくしむ事について熟考してもらえました。

プログラムをさらによいものにするためには、個人的なエピソードを多く話しやすいような和やかな雰囲気作りを丁寧にするべきだと思います。

OH30.6 テーマ:「見守る」

○対象:家庭教育学級

○支援者Dさんの声

プログラムを進めていく間に、参加された保護者の皆さんの様子がかめるので、最後に私自身の話もよく聞いていただけたように思いました。最近は保護者の方から新しい悩みが出てきているので、これからも活動を続けたいと思います。

当日の話し合いの進み具合を見て、時間配分を少し変更しました。

担当校での事前打合せができると、保護者のみなさんの雰囲気がつかめて話を進めやすいと思います。

保護者のみなさんでしっかり話が出来ましたが、私としてはグループの中での話に、もう少し声掛けが出来ればよかったな、と思います。

～事務局より～

貴重なご意見、ありがとうございました。

どの会場にも、参加された方たちの笑顔の輪が広がっていました。

昨年度から始まりました短時間プログラム「歩む」については、とても好評でした。今年度も多数の学校から依頼を受けています。

引き続きよろしくお願いいたします。

また、事前打ち合わせが必要な場合は、放課後連携教育主事と連携を取りながら対応いたします。

京都市 子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部 育成推進課

〒604-8171 京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町566-1 井門明治安田生命ビル2階

TEL:743-0016 FAX:254-5020

今年度より「ほっこり子育てひろば」の担当になりました

子ども若者はぐくみ局の土家と申します。

まだまだ未熟者ではありますが、支援者・補助者の皆様と一緒に

「ほっこり子育てひろば」を全市に広げていきたいと思っております。

また、皆様から頂いたご意見を参考に、今後も当プログラムの発展に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

